

知的障害のある利用者へのサービス

大和大学保健医療学部

藤澤和子

1. 知的障害とは

DSM-5 (アメリカ精神医学会 (APA) 精神障害の統計・診断マニュアル)

- ・発達期に発症
- ・概念的、社会的、実用的な領域における知的機能 (知的能力) と適応機能 (社会生活 に関わる) 両面の欠陥を含む障害

障害程度 IQ 70 以下 (DSM-4)

軽度 50～69 療育手帳 B2

高度な技術や知的行為が必要なければ、いろいろな仕事ができる。

自立した社会生活が営める人もいる。小学校の低学年レベルの漢字が読める人もいる。

中度 35～49 B1

日常生活をするための会話ができる。

小学2年生程度の学習内容が理解できる人もいる。

重度 20～34以下 A

読み書きの習得は難しい。簡単な日常会話ができる人もいる。

最重度 0～19以下 A

話しことばの理解や表現は難しい。

2. 障害特性

対人関係

やりとりが苦手

自己中心性 他者の視点でみるのが難しい。

言語の遅れでコミュニケーションが取りにくい。

認知

今、目の前にあるものや経験したことは認識しやすい。

論理的思考、抽象的思考、計画的な見通しの理解は苦手。

未来、過去の時間

もし、～ならば

次はこうして、こうしよう

記憶

短期記憶、長期記憶の弱さ

言語理解と表出の遅れ

抽象的語彙の理解が苦手、平均発話長（MLU）が伸びない。

読む能力

文字の視覚的認知と、音声と文字を結びつける能力の弱さ。

3. 知的障害の人との関わり方

やりとりのしかた

- ・ 共感的に
- ・ 答えを待つ
- ・ 「わかりましたか？」では、わからない
- ・ 沈黙は、わからない合図
- ・ 質問のしかた

疑問詞は難しい（2歳～4歳後半）

何？ いつ？ どこ？ だれ？ なぜ？ どうして？

選択肢を与える

× 「なにかお困りですか？」

○ 「読みたい本をお探しですか。 聞きたいCDをお探しですか」

話し方

- ・ ゆっくり話す。
- ・ 年齢に相応しいことばを使う。
- ・ 簡単なやさしいことばを使う。
- ・ 短いシンプルな文で話す

体験と視覚の使用

- ・ 体験する。実際を見る、聞く。
- ・ 実物提示
- ・ 写真、絵、シンボルを使った視覚的な支援

4. 公共図書館の利用実態とニーズ（当事者への調査より※）

当事者向けにわかりやすく書かれた質問紙に、本人、あるいは家族や支援者が本人に聞きとって記入する方法による調査を、2016年9月～11月に実施した。

616件の回答、回収率は56.0%であった。

- ・ 公共図書館の利用経験について

ある人は71%、ない人は29%、利用経験のない人の中には、「図書館を知らない」「場所を知らない」「何をしているところかわからない」という回

答が 77 件あった。

・図書館の利用目的について

85%が資料の閲覧と借りることであった。

・図書館へのニーズについて

「わかりやすい資料がほしい」249 件（29%）が最も多く、次は「読みたい本を探すことを手伝ってほしい」「困った時に質問ができる人がいてほしい」「借りる、予約する等の利用方法がわからないことで困っている」「ディセンタや仕事をする場所で図書館の本を借りたい」「本の内容をわかるように書きなおしてほしい」「本や新聞や雑誌を読んでもほしい」等であった。

5. ニーズに応じた公共図書館の取り組み

知的障害者がわかりやすく読みたい資料の所蔵と配架

LL ブック、視聴覚利用の電子技術を活用した資料 —マルチメディア
DAISY やタブレット (iPad、Android)、マンガ、布の絵本、乗り物や生き物の写真の本等

利用しやすい環境作り

わかりやすい図書コーナー、館内標示、コミュニケーションボード

知的障害者にサービスできる人の育成（読書支援サポート講座の実施）

対応、代読、読み聞かせ

施設や学校等の関係機関との連携

図書館以外の生活の場で本を借りるアウトリーチの取り組み

体験ツアー、読み聞かせ

6. スウェーデンの公共図書館の事例

※参考文献

藤澤和子・野口武悟『知的障害者を対象とした公共図書館の利用実態とニーズ調査』

日本図書館情報学会 2017 年度春季研究集会発表論文集、2017、 p.63-66

藤澤和子・服部敦司編著『LL ブックを届ける：やさしく読める本を知的障害・自閉症のある読者へ』読書工房、2009